

第610回番組審議会報告

2016年7月5日開催

■出席委員

櫻井美幸委員長 佐藤友美子副委員長 佐藤卓己委員 津村記久子委員
中野健二郎委員 東野博昭委員 細見良行委員（書面） 丸山雅也委員

■毎日放送出席者

三村社長 梅本専務 木田取締役 浜田取締役制作局長 長富プロデューサー
大牟田コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長

◆審議事項

テレビ番組「クイズ！オーサカ理由学4」

2016年6月5日（日）14:58～16:30 放送

について意見交換した。

【各委員の主な意見は次の通り】

- *典型的なクイズ番組の形式をとらず、出演者がわいわいガヤガヤ雑談をしているうちにナレーションの中で答えが出てくる。目新しい構成で、おしゃべりのテンポもよく、4人のキャスティングには好感が持てた。
- *日曜の昼下がりに、この番組のように娯楽を兼ねて教養を高めるような、エンターテインメントとエデュケーションを組み合わせたエンターエデュケーションの番組は必要であり、内容もよかった。
- *番組タイトルで「オーサカ」とついでいながら、大阪ならではのものがなかったのではないか。大阪らしさ、大阪ならではのものをひとつ入れたほうがよかった。
- *ふだん何気なく使ったり、目にしたりしていながら意外に知らないことへの興味をわかせてくれるし、「なるほど、そういうことか」という納得感も得られた。
- *オーサカ理由学と言う以上、大阪的な理由のつけ方というのは何なのか。少しひねくれたものなのか、あるいは少し実利的なものなのかという、

大阪的なものというメッセージが必ずしも伝わってこなかった。

- *取材に協力した企業名が番組内でことさら出演者によって強調され、思わずタイアップ広告かなと思ってしまったが、実は笑いのネタだったとは知らなかった。きわめて大阪的なつくりだとは思いますが、視聴者にはどのように映ただろうか。
- *本当にゆるくて、気楽に見られる番組だ。うまく“無駄”をとりこんだ演出によって、荒削りだが、おもしろく見えるように工夫している。
- *クイズの答えは一つとは限らないことがある。単純化し過ぎずに、場合によっては、いくつかの理由があっそうなっていると説明されたほうが腑に落ちるのではないか。
- *じゃりん子チエやタレントのキャラクターを使ったナレーションは楽しめたし、最後まで飽きずに見ることができた。
- *司会ではなく、紙芝居風のナレーションによる進行という新しい手法への取り組みは評価するが、スタジオとの一体感に欠けていたという印象を持った。